

クローズアップ インタビュー



瑞宝双光章受章者 **杉浦 仁郎氏** (73歳)

主な略歴

昭和33年4月1日～昭和40年3月31日 高浜町消防団に所属
昭和34年9月26日 伊勢湾台風を消防団員として経験
昭和40年4月1日～ 刈谷市消防署勤務
平成6年3月31日 退職

平成19年秋の褒章があり、永年に渡り消防職に勤め、地域の防災活動に貢献されたことを評価され、瑞宝双光章を受章されました。

杉浦さんのインタビューを紹介します。

受章の感想

私などが受章できるとは思って
もいませんでしたので、驚いたの
と同時に、災害時には出動のため
家を空ける私の代わりに家を守り
苦労や心配をかけた家族、消防の
精神を教えてくださいました。消防
学校の教官には大変感謝しました。

仕事について

きっかけ

まだ車がそれほど普及していな
い時代に、私の叔父がトラックを
運転していたこともあって、車が
大好きで、高校を卒業したらすぐ
に自動車の運転免許を取得して農
業の傍ら自動車を運転していまし
た。

そのころ吉浜地区（当時の消防
団）にも大型の消防車が購入され
る話があり、当時3輪が主流だっ
たころに大型四輪の運転できる者
を探しているということで、私の
ところに話が来たことが消防に携
わるきっかけとなりました。

苦労

昭和28年に非常に強い台風（13
号）があり、農作物に大変な被害
が出ました。このような経験もあ
り消防団に入団したが、昭和34年
には、あの伊勢湾台風が上陸し、
この地域にも重大な被害をもたら
しました。家族を心配しながらも
夜を徹して活動をしました。今思
うと、この経験も自然災害に対す
る貴重な経験となりました。

消防士として

消防団員として7年間ホースを

持つて走りまわってきたことを活
かせる職を探していると、偶然に
も刈谷市で消防職を募集していた
ので消防士として就職することが
できました。

また、何時でも出動できるよう
に日頃の健康管理、訓練は欠かし
ませんでした。

消防車は火災が発生すると現場
へ向かうことと同時に水のあると
ころへ向かわなければなりません。
市内の消火栓の場所を何度も回り
頭に叩き込みました。

安心・安全

私の健康管理は、1日1回汗を
かくことでした。歩くだけでもよ
いので汗をかくということは良い
ことだと思えます。

地震などの災害はいつ来るかわ
かりません。こういった場合は水
道などのライフラインが使えなく
なります。水洗トイレなども使用
できなくなります。こういったこ
とを想定し訓練をするとういと思
います。何でも経験することが大
切です。

少しの気遣いで火災は防ぐこと
ができます。長電話のときには
「火は大丈夫」の一声かけること
も大切です。